

八学大と国際ロータリー協定 講座に講師派遣、教育連携

青森県をエリアとする国際ロータリー第2830地区（成田俊介ガバナー）と

八戸学院大（小林眞学長）は22日、教育連携に関する協定を締結した。ロータリー



協定を締結した成田俊介ガバナー（左）と小林眞学長は22日、八戸学院大

側が秋から始まる「金融経済論」の講座に会員らを講師として派遣すること、地域の実情などを踏まえた具体的な学びにつなげる。

地域の発展と県内経済を担う人材の育成を目的としており、地域経済について学んでもらう機会を創出しようと、学院がロータリー側に打診して実現した。

講座は地域共創学部地域共創学科の2年生以上が対象で、具体的な金融体系などの学びにつなげる専門導入に位置付けられている。

「けっぱれ金融経済論」とのサブタイトルを冠し、ロータリーの会員である県内

金融機関や企業のトップらが講師を務める予定だ。9月16日にスタートし、後期に計15回（各90分）を予定している。

同日は大学で協定締結式が行われた。小林学長は「地域にしっかりと結びついた人材の育成につなげたい」と期待を寄せた。成田ガバ

ナーは「青少年奉仕、社会奉仕の一環。ブラッシュアップして続けていきたいようにしたい」と述べた。
（藤村大地）